

第 1 回ひょうご経済・雇用活性化プラン策定会議における意見・提案

強化策	番号	意見・提案要旨	プラン骨子案の対応箇所
I 稼ぐ力を持つ産業	1	○ 神戸、兵庫では医療産業都市構想でかなり早くから企業や理研、病院の集積が進んでおり、そのアドバンテージを活かさない手はない。成功した一つは再生医療。東京主導、関東主導というのを神戸主導、兵庫主導にできるかがポイントとなる。	プロジェクト 1 施策 1、2
	2	○ 重粒子センターや内視鏡センターなど医療産業都市に治療施設も集まってきたが、うまく活用されていない。そこへいかに患者を運ぶか、滞在型で治療ができるかどうか、治療が終わって地元に戻ったときに地域としてどう医療がケアされるかなど、まだまだ工夫はできる。ヘルスケアだけでなく健康な方々を新しいスキームの中にどうやって入れるかがポイント。	プロジェクト 1 施策 1、2
	3	○ ゲノム医療（遺伝子検査）が盛んになってきている。地域としては関東中心に進んでしまっているが、医療産業都市で動かせないかと考えている。	プロジェクト 1 施策 1、2
	4	○ 私どもは、この会議の委員の方々や大学生と、農業の 6 次化などでつながりを持っており、地域の素材、地域の活動のアピールに携わっている。県立大とも研究発表しており、今年は SPring-8 を使って物理学上の分析をする。小さい会社だが、地域の横のつながりを大事にしながら、自分の技術を日本全国、世界に発信していこうと考えている。まず地道に地元のつながりを達成してから、もっと大きなところへ出ていくという事例を数多く作っていただければ、中小企業も様々な活動ができるのではないかと。	プロジェクト 1 施策 1 (1) 施策 2 (2) プロジェクト 3 施策 4
	5	○ 今のビジネスマッチングでは、企業と企業のつながりを作るが、今後、大学ベンチャーや留学生と民間企業を結びつけ、課題解決型の育成事業など様々な形の共同事業や、ベンチャーそのものに出資していく流れを作れないか。	プロジェクト 1 施策 2 (1) プロジェクト 3 施策 3 (1) (2)
	6	○ 航空宇宙分野は差別化が重要であり、昨年、県立工業技術センターに立ち上がった非破壊検査トレーニングセンターに注目しているが、ゆったりしたスピードで進んでいる。上流(川上)の企業、中小企業、県などが連携して対応する仕組みが必要。	プロジェクト 1 施策 2、3

強化策	番号	意見・提案要旨	プラン骨子案の対応箇所
Ⅰ 稼ぐ力を持つ産業	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海外ベンチャーとも話をするが、日本では特に医療のベンチャーの実力が低い。レギュレーションの問題があり、また、どれぐらいの年数を掛けて製品化し社会に出すかという経験値が低い。それを誰もコンサルテーションできないというのが正直なところ。神戸、兵庫の企業を集めれば、医療機器や治療器具に関しての、新しい特徴ある人材を作っていけるのではないか。 ○ 特にIoTに関しては、情報産業の一環なので、どこにいてもできるかもしれない。それをいかに兵庫の中のビジネススキームとして持ってくるか、というのも一つのやり方。近くに置かなければいけないものと、兵庫・神戸がコアになるものをクリアにするのも一つだと考える。 	プロジェクト1 施策2、3
	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ ベテランの退職により人手が不足し、作業環境も悪いと言われる中小企業が、AI・IoT・ロボット活用により、大きく変化し始めている。中小企業にインパクトがあるのは、「お隣さんがやっている」ということであり、それで一斉に火がついている。 ○ 大手ロボットメーカーも徐々に中小企業に目を向け始めている。大企業と中堅・中小企業がうまくコラボレーションすることが大事で、NIROのような産業支援機関が仲立ちして、県の支援を受けながらやっていくことが、地域創生やメタルベルト再生、ポテンシャルアップに寄与する。 	プロジェクト1 施策3(2) プロジェクト6 施策1
	9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後成長が見込まれる航空宇宙分野には、兵庫県だけでなく、他の都道府県も注目しクラスターが立ち上がっている。兵庫県主体と神戸市主体のクラスターがあり、少なくとも兵庫県内は一つに集約して足並みを揃えて連携して対応していくべき。 	プロジェクト1 施策3(1)
	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな航空機関連企業を国内だけでなく海外から呼び込む施策が必要。また、岡山県にある大型航空機専門の鍛造メーカーのように、第2、第3の素材供給メーカーが今後立ち上がる可能性もあるので、そういった企業を兵庫県に集積する取り組みも必要。 	プロジェクト1 施策4
	11	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、商店街に空き店舗がない、貸してもらえないという実情がある。時が経てば空けてくれるところもあるが、アルチザン(鞆づくりの専門学校)の卒業生が独立したいというときに、空き店舗がない。 	プロジェクト2 施策2(1)(2)
	12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護業界においてハード整備も重要で、多床室と個室があるが個室がいろんな面で有利。生活の質が高まり、職員の業務負担も低減する。しかし、住みながら施設改修するのはコストが非常に掛かるので、ここに補助があれば大変助かる。 	プロジェクト2 施策3(2) プロジェクト3 施策2(3)

強化策	番号	意見・提案要旨	プラン骨子案の対応箇所
Ⅰ 稼ぐ力を持つ産業	13	○ 県産木材の利用増加が、地域経済活性化と雇用創出に大いに寄与する。県産木材利用特別融資（住宅ローン）も現在のゼロ金利の状況では優位性がなく、利用が減っている。制度の見直しや他府県のような助成制度などを、需要を生み出す政策として考えていただきたい。	プロジェクト2 施策4
	14	○ 農村インフラが老朽化しており、早急に対応しなければ、我々の次の世代では農業をすることが難しくなるのではないか。国がAI・IoT、ビッグデータを活用した農業を進めているが、そういった技術を使おうとすれば、今のインフラでは効率よく使えない。農村、農業、農地の一体的な整備をもう一度やり直してほしいという声が出ている。	プロジェクト2 施策4(2)
	15	○ 起業後、事業承継後に、いかに長く続けるかが重要で、相談もよく受ける。起業した後の企業に対する個別具体的な対応が必要。	プロジェクト3 施策1(1)
	16	○ 自分が起業するときは、縁遠いイメージがあり、商工会・商工会議所等に相談に行かなかった。商工会の1階がブックカフェなら、普段の話がしやすく、相談のハードルが下がるのではないか。	プロジェクト3 施策1(1) 施策3
	17	○ ものづくりからサービスへという点について。今はAI・IoTが不可欠で、お客様の問題を一人ひとりが考えて、自分たちのサービスとどこが一緒に組めば、より高度化できるかを考えている。様々なパートナーのそれぞれの強みを持ち寄り、一つの問題解決につなげていく交流の場があればよい。	プロジェクト3 施策1(2)
Ⅱ 環境変化に対応し、挑戦する人財	18	○ 離島戦略と名付け、沖縄県の宮古島や石垣島からの人材を引っ張っている。県内での採用が難しいというのもあるが、大学がない地域の方々をいかに呼んでくるか。そういった意味では兵庫県にはすべての産業があり非常に魅力的なので、こういう若者と一緒にやれる機会もこれから作れるのではないか。	プロジェクト4 施策1(1)
	19	○ 就業前の若者との接点作りという点で、学生の入学前の面接試験をやると、ホテルに就職したいという話が出るが、旅館に就職したいという話は一切出ない。旅館に泊まったことがなく、ホテルにしか泊まっていないためである。旅館というものがどういうものかを経験させない限りは、経験したことがないものを就職先として選択することはまずない。いかに接点を作り上げていくかが大切。	プロジェクト4 施策1(1)(2) プロジェクト8 施策2(2)
	20	○ 給料が高いため就職は関東に行くが、ある程度の年齢になったら戻ってきたい人もかなりいる。そういった人たちをいかに取り込むかということと、中小企業をバックアップするために、県内の大学で人材育成のシステムを構築していかないといけない。	プロジェクト4 施策1、2 プロジェクト6 施策1

強化策	番号	意見・提案要旨	プラン骨子案の対応箇所
Ⅱ 環境変化に対応し、挑戦する人材	21	○ 欧州アジア圏を中心に、大学教育における企業の中でのインターンシップが非常に重要視されている。特にオックスフォードなど優秀な日本学の学部のある大学から、日本に留学した後に日本企業にインターンシップの機会を設けてほしいという要望が強くあり、機会を設けることで、優秀な留学生を引き付ける大きな魅力となる。兵庫県は国際交流の実績が強みとなっているので、県内の企業と連携して機会を設けることで、多くの人材を引き付けることができ、留学しない学生の国際化にも寄与する。	プロジェクト4 施策3(4) プロジェクト9 施策1(3)
	22	○ ハラスメント（セクハラ・パワハラ・マタハラ等）に関する課題認識やその根絶を求める声は世界各地で高まっている。連合調査では、5割を超える人が職場にハラスメントがあると回答しており、その影響は仕事のみならず健康にも悪影響を及ぼしている。あらゆるハラスメントの根絶に向けて、「事業主に対する防止措置義務」の有効性も課題として検討すると同時に、兵庫労働局との連携により、先行的に県レベルで取り得る施策を検討していく必要がある。	プロジェクト5 施策1(1)
	23	○ 具体的な働き方を兵庫モデルとして提案してはどうか。例えば、子育てや介護に関係なく、天候が悪いときに在宅勤務ができる、自己研鑽の時間が欲しいなど、すべての方々が働く場所や時間にとらわれない形にすると、様々な形で働ける。そのためには、成果で評価することや、深夜労働は絶対してはいけないといったルールを作らなければならない。	プロジェクト5 施策1 施策2(2)
	24	○ 多様な人材の活用は、女性や高齢者などの属性に着目して対処してだけでなく、むしろ典型的な男性正社員も含めた、すべての労働者のワーク・ライフ・バランスや働き方の変化に総合的に取り組む問題である。	プロジェクト5 施策2(1)(2)
	25	○ 近年、フリーランサーやクラウドワーカー等を中心に、契約形態は請負等であるにも関わらず、実態は雇用労働に近いといった「雇用類似の働き方」をする者の、労働者性や保護のあり方が問題となっている。今後の労働政策上の最重要テーマの一つにもなっており、その動向に注視をしつつ、兵庫労働局との連携により、兵庫県下における実態の把握に努める必要がある。	プロジェクト5 施策2(2)
8 (再掲)		○ ベテランの退職により人手が不足し、作業環境も悪いと言われる中小企業が、AI・IoT・ロボット活用により、大きく変化し始めている。中小企業にインパクトがあるのは、「お隣さんがやっている」ということであり、それで一斉に火がついている。 ○ 大手ロボットメーカーも徐々に中小企業に目を向け始めている。大企業と中堅・中小企業がうまくコラボレーションすることが大事で、NIROのような産業支援機関が仲立ちして、県の支援を受けながらやっていくことが、地域創生やメタルベルト再生、ポテンシャルアップに寄与する。	プロジェクト6 施策1 プロジェクト1 施策3(2)

強化策	番号	意見・提案要旨	プラン骨子案の対応箇所
Ⅲ 地域の魅力で沸き起こる交流	26	○ インバウンドは今からがチャンス。これまで外国人が広い範囲で行動していたが、これからはリピーターで行動範囲が狭くなる。京都、大阪を中心に再び西日本を楽しもうという動きで、そのためには兵庫県を通過していかなければならず、この点を活かすことが大事。	プロジェクト7 施策1
	27	○インバウンドを大阪、京都と比較する必要があるのか。業績指標を改めて考え直す必要がある。兵庫県としてどんなお客様にどれぐらい来ていただきたいのかを考えていけばよい。量ならば、訪問客数なのか、宿泊客数なのか。「すこやかさ」を作り上げていくのに、観光を使ってどのように仕掛けていくか考えながら、業績指標もそれに見合ったものを作っていくことが大切。	プロジェクト7 施策1
	28	○ 県境を越えて他地域とのつながりを戦略的に仕掛けていくことが大切。観光する側としては、自分の趣味や価値観をもとに旅行の目的・訪問先を決めるので、県境は全く関係ない。五国や県境を一旦忘れることも必要ではないか。	プロジェクト7 施策1～3
	29	○ 兵庫県でスポーツ体験できる場を提供してはどうか。例えば、東南アジアの人は雪を見るだけで喜ぶ。雪が豊富にある県北部まで、姫路から電車で90分で行けるという利点を活用すればどうか。 ○ 兵庫県には、都市部でも各種スポーツ施設が集積している地域がある。各施設を連携させ、様々なスポーツを体験できる場を作れば、海外から来る人たちも増えるのではないか。 ○ 大学の活用という点で、例えば、フェンシングの剣の軌道を解析して動画で見られる技術がある。海外には剣道を体験したい人が非常に多いので、この技術を剣道に当てはめ、エンターテインメント性を持たせて、自分が体験したスポーツを楽しく見られるようにする。さらに、トップアスリートの競技の解析にも使える。国立科学スポーツセンターのような機能を持たせれば、アナリストも専門家ではなく大学の理系の学生にさせることもできる。スポーツ体験を軸に、産業・雇用を創出し、学生の研究の場を与えることもできるのではないか。	プロジェクト7 施策3(1)
	30	○ 分野の融合という点で、農業、漁業、商工業、医療、スポーツ分野等とのつながりをいかに作り、独自の魅力を作り上げていくかが大切。大阪や京都に勝つためにも、特産品や特産物、技術などを融合させてブランド化させていくことが、うまく魅力を作り上げていくことに繋がる。具体例として、フランスの観光政策に、今年は5つのブランディングを図ると決め、これに合う企業、自治体は手を挙げてくれ、という「ディスティネーションコントラクト」という仕組みがある。これを県内でやるなら、無理してゴールデンルートを作ると言うよりは、5つのテーマに沿う、そのストーリーに合うところに手を挙げていただく仕組みを作ってはどうか。	プロジェクト7 施策3

強化策	番号	意見・提案要旨	プラン骨子案の対応箇所
Ⅲ 地域の魅力で沸き起こる交流	31	○ 最近旅行者は体験を求めている方が多い。兵庫県に来る外国人観光客が少ないというのは、グルメを体験したい人は大阪、歴史を体験したい人は京都に行ってしまうからでは。兵庫県にも神戸ビーフやお酒、姫路城などがあるが、広いエリアで離散的になっており、外国人にとって一つひとつが薄いと捉えられているのではないか。	プロジェクト7 施策3
	32	○ 姫路城への観光客の減少に関して、旅行社から聞くのが、姫路城が駐車場から遠いということ。高齢化が進んでいるので、姫路城前でバスを降りられれば、行程を30分省略できる。また、姫路城の後に行く場所がなく、例えば、そのまま小豆島や岡山方面に行ってしまう。	プロジェクト8 施策1
	19 (再掲)	○ 就業前の若者との接点作りという点で、学生の入学前の面接試験をやると、ホテルに就職したいという話が出るが、旅館に就職したいという話は一切出ない。旅館に泊まったことがなく、ホテルにしか泊まっていないためである。旅館というものがどういうものかを経験させない限りは、経験したことがないものを就職先として選択することはまずない。いかに接点を作り上げていくかが大切。	プロジェクト8 施策2(2) プロジェクト4 施策1(1)(2)
	21 (再掲)	○ 欧州アジア圏を中心に、大学教育における企業の中でのインターンシップが非常に重要視されている。特にオックスフォードなど優秀な日本学の学部のある大学から、日本に留学した後に日本企業にインターンシップの機会を設けてほしいという要望が強くあり、機会を設けることで、優秀な留学生を引き付ける大きな魅力となる。兵庫県は国際交流の実績が強みとなっているので、県内の企業と連携して機会を設けることで、多くの人材を引き付けることができ、留学しない学生の国際化にも寄与する。	プロジェクト9 施策1(3) プロジェクト4 施策3(4)
	33	○ 海外を視野に入れた方がよい。兵庫県で何ができるのかというと、分野の融合。例えば、ロシアのノボシビルスクでは、夏は夜10時まで明るく、外で食事する。蚊に悩まされるので、レストランでは蚊取り線香が焚かれており、そのおいでジビエ料理が台無しになる。料理と蚊取り線香、どちらも兵庫に強みがあるので、一緒に仕事をすればすごいビジネスになる。海外で何を求められているのかを知り、どことどこの分野で対応できるのか取り組めば大きな力になる。	プロジェクト9 施策3